

【感染症情報】

狂犬病に関するQ&A(厚生労働省発信)



出典元：厚生労働省ウェブサイト

■狂犬病について <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/index.html>

■狂犬病に関する Q&A <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/07.html>

※以下の Q&A は、「お問い合わせの多い質問」から抜粋したものです。

Q（世界では）どのくらいの方が狂犬病に感染して亡くなっているのですか。

A 世界保健機構(WHO)の推計によると、世界では年間におおよそ5万5千人の方が亡くなっています。また、このうち3万人以上はアジア地域での死亡者と言われています。

Q 日本ではどのくらい発生していますか。

A 日本国内では、人は昭和31年(1956年)を最後に発生がありません。また、動物(猫)では昭和32年(1957年)を最後に発生がありません。現在、日本は狂犬病の発生のない国です。

なお、輸入感染事例としては、狂犬病流行国で犬に咬まれ帰国後に発症した事例が、昭和45年(1970年)にネパールからの帰国者で1例、平成18年(2006年)にフィリピンからの帰国者で2例あります。

▼我が国における発生状況

	1953年	1954年	1955年	1956年	1970年	2006年
死亡者数	3人	1人	0人	1人	1人(※1)	2人(※2)
犬の発生数	176頭	98頭	23頭	6頭	発生なし	発生なし

※1 ネパールを旅行中、犬に咬まれ帰国後発病、死亡した輸入症例。

※2 フィリピンを旅行中、犬に咬まれ帰国後発病、死亡した輸入症例。

Q（日本で）犬に咬まれました。狂犬病に感染しますか。

A 日本国内の場合、狂犬病は発生していないので感染の心配はありません。

海外、特に東南アジア等の流行国で狂犬病が疑われるイヌ、ネコおよび野生動物に咬まれたりした場合、まず傷口を石鹸と水でよく洗い流し、できるだけ早期に医療機関を受診して下さい。

咬んだ動物の特定ができ、予後を観察できる場合、咬まれてから2週間以上その動物が狂犬病の症状を示さない場合には、咬まれた時に狂犬病に感染した可能性を否定できるので、暴露後ワクチンの連続接種を中止できます。